

## 「子供たちの未来づくり」①

# 先生も成長する 「よのなか教室」



学校の先生方に、もつと社会に関心を持ってもらうにはどうしたらいいのだろうと、このところずっと考え続けていた。まずは、見てもらうことだと思つて、工場見学を勧めました。先生方はとても忙しい。時間がなかなかとれない。「行ってみただけ、時間の都合がつかなくて……」と言われると、それ以上強くは勧められないのだった。

あるとき、運動会の日程が変わつて、振替休日が使えることになり急遽、工場見学をセットできることになった。日向細島の主力工場である旭化成ハイポア工場や日向製錬所を見学してもらった。結果はてきめんだった。先生方の目の色が変わった。いくのが手に取るようにわかった。やはり、本物に触れることで得られるインパクトは、想像以上に大きい。この先生方からは、次の機会も是非つくつてほしいと切望され、それではと、さらに視野を大きく広げてもらうことにして、延岡の旭化成マイクロスシステム（LSI製造）とバイオマス発電所を見学してもらった。工場という限られた窓を通してではあるが、生の社会のダイナミズムを、体で感じられたに違いないと思う。

もうひとつ、実は思いもかけず、「よのなか教室」が、先生方にとって生の

社会を知る絶好の機会になるということがわかった。「よのなか教室」では、実際に授業が行われる前に、必ず学校の先生方に「よの



なか先生」（社会人講師）の職場に行つてもらつて、そこで事前打合せをしていただくことにしている。そして、今回の授業では何をねらいとするのか、子供たちに何を伝えてほしいのか、といった話し合いが行われる。この場がほぼ例外なく盛り上がるのだ。そして、先生自身が勉強になったという声が続出した。ある先生から、「私自身が教師としていい経験をさせていただきました。実際にお会いして打合せすることでお人柄や生き方考え方が少しずつ分かってきました。そこから子供たちに伝えてほしいこと等、授業の組み立てができきました。この経験を通じて私自身のキャリア教育になりました。」という手紙をいただいた。私はこの言葉に感動して涙が止まらなかつた。

文／日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲